地域読者局

ファン増やし部数拡大

プロモーショングループ

地域読者局は新聞の購読者、部数を増やすことが最重要課題です。部数は新聞社の「力」のバロメーターと言え、広告料やチラシ収入に直接影響することから、何よりも大切にしています。

プロモーショングループは地域の販売店を管理する販売グループのバックアップ的な役割と、イメージ戦略のブランディング、NIB（ビジネスに新聞を）などの出張講座も行います。

バックアップ的な役割では、新報読者に付与する「Tポイント」のポイント管理、キャンペーン活用があります。地域読者局がPRしたい情報をチラシや紙面特集として制作します。新年のカレンダー、家計簿の作成では、アイデアやデザイン力が試されます。新報読者へ感謝の気持ちを伝える「愛読者キャンペーン」も重要な施策です。限られた予算で、読者が関心を持つ賞品をどう構成するか、毎回頭を悩ませます。応募数が伸びると苦労が報われます。

ブランディングは琉球新報を印象づけるテレビやラジオCM制作、琉球ゴールデンキングスやFC琉球などとのスポンサー契約があり、社名の露出にこだわります。

NIBは各企業が実施する新入社員対象の研修で、新聞の読み方やビジネスに生かす方法を伝えます。購読者の高齢化が新聞社の課題で新しい読者やファンを増やす取り組みとして重要視しています。

業務上、心掛けているのは素早い対応、反応です。業務の性質上、外部の方とやり取りする機会が多く、問い合わせや依頼されたことに対しては、できるだけ早く返すように努めています。

今後は「Tポイント」の認知度をもっと上げたいです。Tポイントを導入している企業とコラボレーションし、お互いでPRし合う。Tポイントを通じてお客様が増える仕組みを作ることが理想です。

ファミリーを合言葉に

販売グループ

地域読者局販売グループで南城市の販売店を担当しています。販売店は南城市だけで50店以上。店主から販売部数の聞き取りや連絡などをすることが主な業務です。販売店とは「琉球新報のファミリー」を合言葉にいい関係を築けるよう心掛けています。部数をいかに増やし、いかに維持するかということは常に意識しています。

入社当時は編集局に配属され、その後は事業の担当もしました。販売店との関わりを持つようになって3年。店主が質問をしやすいように頼れる存在になりたいと思っています。

販売店の課題の一つが店主の高齢化です。引退した店主の代わりに勤めてもらえる方を探すのも業務の一つです。地域の各戸を回って直接お願いをしたり、区長や地域をよく知る方に紹介してもらったりして探します。

店主がよりスムーズに販売店を運営できるよう、地域の人々の関心を高めるイベントも企画しています。読者に参加を呼びかけ、販売店主の畑で野菜を育てて収穫するイベントを昨年開催しました。若い子育て世代に新聞を身近に感じ、親しんでもらうことが目的です。今後も継続して開催したいですね。

當眞 正武
とうま　まさたけ
2001年入社

所属部署
地域読者局プロモーショングループ

趣味・特技
オリーブを育てること。週末に料理すること。チャーハンは子どもたちにも評判

就活生へのアドバイス

就職活動で目にする企業以外にも、人を求めている会社はたくさんあります。親や親戚にいろいろ聞いて情報を集めてください。

新しい仲間にはチャレンジ精神がある人を求めたいですね。

プライベート

就職してから実感するのは「休日」の大切さです。10年前から家で観賞用のオリーブの木を育てています。4月ごろから害虫のカイガラムシが付くようになり、駆除も含めて趣味になっています。オリーブは枝や葉を切ってもたくましく育つ生命力が魅力ですね。

玉城 文
たまき　あや
2017年入社

所属部署
地域読者局販売グループ

趣味・特技
美術館・博物館巡り

ジャズのライブコンサートを堪能

就活生へのアドバイス

大学卒業後、新報社に入社する前、複数の仕事を経験しました。人それぞれ自分の考え方があると思いますが、いろいろな経験を積むことはできたと思っています。就職後はできないこともあると思うので、学生時代はいっぱい遊んだ方がいいかもしれません。本社を目指す方にアドバイスしたいのは当然ですが新聞を読むことです。結構難しい時事問題が出題されますが、新聞を毎日読んでいれば大丈夫です。

プライベート

大学は美術専攻だったこともあり、休日は美術展やコンサートを巡ることが多いです。年1度は美術展に狙いを定めて県外に旅行します。2019年に愛知県であったオーストリアの画家、クリムトの大型展も見に行きました。沖縄県立博物館・美術館にもよく足を運びます。歩くことも好きで毎日、帰りは頭を空っぽにして家まで歩くようにしています。季節の変わり目に風を感じながら歩くのは気持ちがいいです。

社是

- 不偏不党、報道の自由と公正を期す
- 沖縄の政治、経済及び文化の発展を促進し、民主社会の建設に努める
- 国際信義にもとづき、恒久世界平和の確立に寄与する

編集綱領

- 公正、迅速、品格を保ち、健全なる世論を育成する
- 沖縄の諸問題を解明し、経済の発展、文化の向上と民主福祉の充実につくす
- 世界平和の確立と民主社会の建設に寄与する

スピード感を大切に情報を発信

「琉球新報」は沖縄の新聞社です。新聞を毎日発行し、沖縄から世界へニュースを発信しています。

新聞社は報道機関であり、読者や145万県民の皆さまが主人公です。

琉球新報社で働くすべての人の意識も同じ方向に向かうよう、社員を育てながら社会に貢献できるような組織を目指しています。

「沖縄の未来は自分たちで決める」という強い気持ちを持って、これからもスピード感を大切に沖縄から情報発信をつづけます。

代表取締役社長　玻名城 泰山

琉球新報の主な受賞歴

4回の新聞協会賞など多数

琉球新報は地元に根差し、沖縄の諸問題を報道し続けてきました。県民の視点からさまざまな社会の問題に対し、報道してきた姿勢が評価され、数多くの賞を受賞しています。本紙報道の主な受賞歴を紹介します。

日本の報道界（新聞・通信・放送を含む）で最も権威がある新聞協会賞は、「中国漁船団による尖閣侵犯の写真報道」（1978年）、「検証 老人デイケアキャンペーン」（1998年）、沖縄戦60年企画「沖縄戦新聞」（2005年）、山陰中央新報との合同企画「環りの海」（13年）で4回受賞しました。

近年では「沖縄県知事選をめぐる報道のファクトチェック報道」が「平和・協同ジャーナリスト基金賞」（18年）、「第23回新聞労連ジャーナリズム大賞」（19年）、「石橋湛山記念早稲田ジャーナリズム大賞公共奉仕部門奨励賞」（同）に選ばれています。

そのほかにも日本ジャーナリスト会議（JCJ）賞、疋田桂一郎賞、アップジョン医学記事賞特別賞、ファイザー医学記事賞優秀賞など多彩な賞を受賞しています。

LINE関連で3年連続受賞

最近ではデジタル分野でも高い評価を得ています。2016年から、始めている無料通信アプリ「LINE（ライン）」の「ダイジェスト定時配信」は「LINEニュースアワード」の地方メディアII部門で、18、19年の2年連続で大賞を受賞しています。さらにLINEとのコラボ（連携）企画の「戦争の記憶、いかに次世代へ？ Coccoが明かす『祖父母の教え』」は、20年のLINEジャーナリズム賞を受賞しました。

新聞協会賞

1978年【編集部門・写真】
中国漁船団による尖閣侵犯の写真報道

98年【編集部門・ニュース】
「検証 老人デイケア」キャンペーン報道

2005年【編集部門・企画】
沖縄戦60年企画「沖縄戦新聞」

13年【編集部門・企画】
山陰中央新報との合同企画「環りの海」

その他

2018年【平和・協同ジャーナリスト基金賞】
19年【第23回新聞労連ジャーナリズム大賞】
同年【石橋湛山記念早稲田ジャーナリズム大賞公共奉仕部門奨励賞】
沖縄県知事選をめぐる報道のファクトチェック報道

LINEニュースアワード

2018、19年【地方メディアII部門】
ダイジェスト定時配信

20年【LINEジャーナリズム賞】
LINEとのコラボ（連携）企画「戦争の記憶、いかに次世代へ？ Coccoが明かす『祖父母の教え』」